

# 令和6年能登半島地震による 被災者（要介護者）の受け入れについて

荒川 和世

(医療法人社団 KaNaDe)

令和6年1月1日16時10分ごろ、能登地方を中心に最大震度7の地震が発生しました。津波の被害も含め、家屋の倒壊、半倒壊、道路が寸断されるなど甚大な被害を被りました。

お正月でもあり帰省した家族と団欒の時を一瞬にして奪われ、尊い命も奪われました。

能登半島という地形から、海と山に囲まれ、県庁所在地である金沢と能登半島とを直結する自動車専用道路であるのと里山海道が寸断されたことにより、災害復旧にも思うように進まない状況でした。

石川県は能登地方、加賀地方に分けられ、地形は、南西から北東に向かって細長く、東西100.9km、海岸線は約580.9kmの延長を有します。金沢から先端の珠洲市まではのと里山海道で行くと3時間かかります。仮に大阪府庁の場所に石川県庁があれば珠洲は京都府や滋賀県を通り越して福井県の敦賀に当たります。なので復旧に難儀することがわかつて思います。

過疎地であり、高齢者が多い地域でもあります。高齢者施設も倒壊し、職員も罹災し休職している

状況です。高齢施設に入居者全員が1.5次避難所へと避難し、容態急変のため公的病院へ救急搬送され、病状回復し、退院させたいが、避難所へは返せないとの病院の判断により、当施設へ紹介され受け入れた方など含め計6名を受け入れしました。

当施設は看護小規模多機能型居宅介護と住居型有料老人ホームを併設した施設であり、看護師は24時間常駐しています。そのため医療依存度の高い方が病院より紹介されています。金沢市より避難者に関しては5%の定員増は認めるとの通達があり、当施設は6床の泊りなため2名の受け入れ可能となります。パーティションで区切り同性の方を2名受け入れました。

部屋があれば福祉避難所として受け入れ可能とのことで事務室を急遽福祉避難所として、家族も含め受け入れることとしました。当施設の入居者は癌ターミナルの方が多く、被災者も主にターミナルの方で、残された少ない時間を家族とともに過ごして頂きたいと受け入れています。